

平成 30 年 4 月

日本セーフコミュニティ推進機構・上席アドバイザー
箕輪町セーフコミュニティ推進協議会・アドバイザー
向山 静雄

第一 セーフコミュニティとは

事故やケガは、病気と同様に、健康な生活を脅かす大きな要因であり、外傷予防への活動は広義の健康づくりとなることから、WHO・世界保健機関がセーフコミュニティを推奨しています。セーフコミュニティとは安全安心な地域社会ということでその活動はデータを根拠とし、活動当初は不慮の外的要因による外傷のみに焦点を当ててきましたが、次第に自殺、虐待などの意図的要因も対象とし、近年では自然災害による人的被害も対象としています。

第二 箕輪町の取組み

- ① 平成 21 年 12 月 14 日取組みを宣言して「地域の絆、協働、継続」をキーワードに取組みを開始し、平成 24 年 5 月 12 日全国で 4 番目、全国の町村及び県内で初めて国際認証を取得しました。(現在国内認証自治体は 15)
- ② 以後、
 - ・平成 26 年 3 月 17 日 認証取得日の 5 月 12 日を「箕輪町安全安心の日」と宣言
 - ・平成 27 年 7 月 30 日 共通・共感テーマ「あいさつで広げよう地域の絆」
 - ・平成 27 年 10 月 1 日 推進補助金制度スタート(年 20 万円、累計 100 万円)
 - ・平成 28 年度町第 5 次振興計画・箕輪チャレンジに「世界に誇るセーフコミュニティのまち、安全安心チャレンジ設定等を進めてきました。
- ③ 5 年ごとの更新制度であることから、箕輪町は平成 29 年 5 月 27 日国際審査員の現地審査を経て国際再認証を取得しました。
- ④ 施策の中での重要度
期待⇒平成 28 年 10 月の住民満足度調査で、第 5 次振興計画重要プロジェクト 17 項目中「世界に誇るセーフコミュニティのまち・安全安心チャレンジ」が重要度トップ(35.5%)。以下、教育力向上、公共交通、健康寿命、子育ての順。
⇒平成 29 年 12 月～の住民満足度調査で、27 項目中「安全安心の推進」が重要度 2 番(46.2%)。1 位は健康づくり、3 位生活環境、4 位育児子育て。
- ⑤ 平成 30 年度の施策
新たな取組みとして、防犯外灯の増設(946 万円)、夜行反射材着用推進(200 万円)、運転免許自主返納の推進(100 万円)の事業が行われます。

第三 箕輪町の地区活動

- ① 箕輪町における特徴的活動は、箕輪町セーフコミュニティ推進協議会による活動と、地域特性を尊重した地区セーフコミュニティ活動があり、再認証には地区活動が大きく評価されました。
- ② 地区推進協議会の設置地区
 - ・北小河内セーフコミュニティ協議会(KSC)
 - ・富田地区安全安心推進協議会(TAA)
 - ・八乙女セーフコミュニティ推進協議会(YSC)
 - ・福与区セーフコミュニティ推進協議会
 - ・中原セーフコミュニティ推進協議会(NSC)
 - ・長岡区セーフコミュニティ推進協議会

③ 地区活動事例

- ・アンケートに基づく安全安心(危険箇所等)マップ作成
- ・大半の区民が登録した緊急時安否確認台帳作成～個人情報クリア
- ・ゴミだし、雪かき支援
- ・セーフコミュニティによる交通規制要望で実現
- ・高齢運転者の免許自主返納に係るアンケート ⇒ 足確保の対応検討中

第四 箕輪町の課題

「見える化」、若年層の無関心対策

(平成 27 年アンケート認知度 48.8% 平成 29 年認知度 50.0 で横ばいであり、若者の認知度は低い。)

第五 住民主導のあり方についての思考

(1)行政と住民サイドの観点の違い

行政⇒使命感

住民⇒常に安全安心を考える環境になし⇒必要な時、できることから

(2)環境

地震・洪水等の頻発の他、ごく身近な安全安心への脅威があり、継続取組みは必要

(3)あり方

行政⇒情報提供と財政的支援を主眼に

住民⇒安全安心の取組みが**触れ合いの場**になり存在感があるもの⇒住民リーダー

※ 2025 年を目処とする介護の地域包括支援システムで期待される共助

※ 「白馬の奇跡

と言われる平成 26 年 11 月神城断層地震での共助

⇒共助の**基盤づくりの場**に

ともに安全・安心な町づくりを! 「できることから」「継続を」